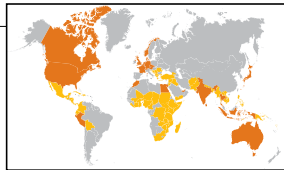


継続事業

新型コロナウイルス感染症緊急支援事業

— 医療・介護従事者や難民など感染リスクの高い人々と社会的に弱い立場におかれた人々の命を守る —



活動地域: 全世界
 事業期間: 2020年5月～2021年12月(1年8か月間)
 事業規模: 4,620千円(総事業費: 1.4億ドル)
 主な支援者: 支援組織、個人

69^{か国}

活動を実施した国の数

34,500,000^人

直接支援を受けた人の数

6,900,000^人

GBV(ジェンダーに基づく暴力)と性と生殖に関する保健サービスの提供を受けた人の数



©Asafuzzaman Captain/CARE Bangladesh

課題

新型コロナウイルスとの長い闘いを続けている世界は、公衆衛生の状態が劣悪で医療システムが脆弱な途上国や紛争地域への感染拡大の影響を最小限に留め、ワクチンの公平な供給を行うという課題と対峙しています。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響は男女によって差があります。全世界的に家庭で病人など無償のケアを担うのは76.2%が女性。また、医療施設では、介護者や看護者の約7割を女性が占め、防護措置も不十分な中、医療の最前線に立つ女性の感染リスクが懸念されています。さらに、感染者の隔離や経済的な苦境におかれた世帯ではストレスが高まり、その結果、家庭内暴力や性的搾取が増加する傾向があります。

活動内容

ケア・インターナショナルとしてのグローバルな連携と連帯のもと、本事業を最優先し、公衆衛生の啓発、安全な水の供給、食糧配布、衛生用品(石鹼、手指消毒、生理用品など)の配布、現金や商品引換券の配布、感染予防と医療提供についての情報発信、ジェンダーに基づく暴力の予防と保護などの活動に取り組みました。また、20年以上のワクチン事業の経験を活かして、複雑なワクチン輸送の運営や技術指導を行うとともに、見過ごされやすい現場の助産師や衛生ボランティアなど医療従事者の声をすくい上げました。今後は、同様の感染症の再出現とまん延を予防するため、地域、世帯、個人それぞれの回復力を強化していくことが求められています。

受益者の声



©Terhas Berhe/CARE

マハレットさん

コロナ禍でCAREが30年前にニジェールで立ち上げた貯蓄貸付の仕組みVSLA*が見直されています。コロナ以前も、VSLAの女性たちは、気候変動など地域の課題に連帯して取り組んでいましたが、感染拡大に際しては、それぞれの地域でリーダーシップを発揮し、感染予防に関する情報発信を担うなど、互助会的な機能を果たしています。エチオピアでVSLAのリーダーを務めるマハレットさんは、「私たちが行った手洗い指導により、コレラや風邪の感染者数も減った」と喜ぶ一方、学校の休校により、女子生徒の早期婚が増えたといいます。「女子たちが経済的にも社会的にも自立していけるよう、この活動を続けていきたい」と語ってくれました。

*VSLAとは、15～25人で構成される村内貯蓄貸付組合で、貯金と小規模貸付を行う。返済金の利息がもたらす収益はメンバー間で分け合う仕組み。従来型の銀行には融資してもらえず、マイクロファイナンス機関も利用できないほどの僻地では、現地の銀行として機能している。